

	課題（伸ばしたい力、身に付けさせたい力）	改善プラン（課題改善のプラン、具体的手だて）、改善プランの評価
国語	<ul style="list-style-type: none"> 平仮名は、ほとんどの児童が読んだり書いたりすることができている。字形を捉えることや、日頃から丁寧に字を書く姿勢も身に付けさせたい。 いろいろな読み方で、音読に取り組んでいる。 読書への興味、取り組み方に個人差が大きい。文字を読む力を伸ばし、さらに読書に親しむことができるようにしたい。 三文程度の基本形に即した文は書くことができる。助詞、促音、拗音、長音の使い方をさらに身に付けさせたい。また、句点の使い方も十分に身に付いていない児童もあり、繰り返し指導をしていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 字形を整えるために4つの部屋を意識させたり、文字全体の形（四角、縦長、横長など）に注目させたりする。 一人、ペア、グループ、全体など読み方を変えたり、動作化・劇化などを工夫したりして、音読の楽しさを感じられるようにする。 すきま読書をすすめるとともに、児童が興味を抱くような本を紹介したり、読み聞かせを積極的に取り入れたりする。また、図書室の本の貸し出しの際に、2冊のうち1冊は読み物の本を選ぶよう声を掛けることで、文字を読む機会を増やしていく。 日記を書いたり、他教科でも感じたことや気付いたことなどを書いたりする活動を多く取り入れる。文末に句点を付けているかを自分で確認させることを繰り返し、意識づけをしていく。 <u>音読の宿題を、毎日出す。</u> <u>読書の時間を確保する。</u> <u>基本形（いつ、どこで、だれと、何をした、どうだったか）を使い、助詞・促音・拗音・長音の使い方を繰り返し練習する。</u>
算数	<ul style="list-style-type: none"> 10までの数、たし算、ひき算はおおむねできている。 数の合成、分解について身に付けさせ、数感覚をより養いたい。 問題場面と式を関連付けて理解する力を身に付けさせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 日頃から、ものの数を数える活動や「いくつといくつ」の学習を復習を授業に取り入れる。 <u>フラッシュカードを使って、数の構成を意識させたり、計算問題に慣れさせたりしていく。</u> 文章や絵を手掛かりにして、問題場面を明確に捉えることができるようにする。式で使われている数と問題文を関連付けながら、指導していく。
生活	<ul style="list-style-type: none"> 学校探検で2年生に学校の様々なことを教わり、もっと自分が知りたいことを調べることができた。幼稚園や保育園のこともたちと関わる機会をもち、小さい子に親しみをもたせたい。 一人一鉢で継続的にアサガオの世話と観察をし、大切に育てることができた。 動物を飼う活動はまだ行っていない。動物へ親しみをもち、生命の尊さを実感させたい。 身近な自然の様子や、四季の変化に気付かせたい。 水遊びで遊ぶものを作ったり、遊び方を考えたりしたが、工夫することに個人差があった。遊びや遊びに使う物を工夫してつくる力を身に付けさせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> <u>幼稚園や保育園との交流で、学校の紹介をしたり、幼稚園児や保育園児と遊んだりして、児童が自分よりも小さい子に親しみをもてるようにする。</u> <u>学校で飼育しているウサギやカメの世話や、校庭・中庭の虫などを飼う。児童の「この動物を飼いたい」という思いを大切にし、飼育の仕方を調べ、世話をしたり、観察したりする。飼育を通して、動物の変化や成長の様子に関心をもつとともに、生命の尊さを実感させる。</u> <u>校庭や中庭の探検を繰り返し行い、気付いたことを共有し、まとめることで、身近な自然の様子や四季の変化に気付かせる。</u> <u>様々な自然と触れ合ったり、繰り返し遊んだり、遊ぶものを作ったりすることで、工夫する力を育てる。また、一人一人の思いや願いを生かした多様な遊びを行うための学習環境を整える。</u>
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 歌唱が好きな児童が多く、範唱を聴いて曲想を感じ取ることができる。 表現活動に意欲的な児童と、恥ずかしさがある児童の差が大きい。自由に表現する楽しさを感じ、のびのびと活動を楽しんでほしい。 意欲的に取り組もうとする児童が多いので、鍵盤ハーモニカの正しい指使いやタンギングができるようにしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな演奏形態の曲や楽器の音色を聴かせ、様子を思い浮かべて聴いたり、曲の気分を感じたりできるようにする。 <u>友達と一緒に活動したり、伸び伸びとした表現ができている児童に注目させたりすることで、表現活動への抵抗感をなくしていく。</u> <u>鍵盤ハーモニカの演奏では、ドレミで歌う、空で指使いを確認する、歌いながら鍵盤上で指を動かす、など段階を踏みながら練習をしていくことで、技能面を高めていく。</u>
図工	<ul style="list-style-type: none"> 作画や造形などの制作活動に意欲的に取り組む児童が多い反面、自分の思い通りに表現したり、自由に発想を広げたりすることに戸惑う児童が少なくない。 はさみ、のり、クレヨン、色鉛筆、絵の具など、用途に応じた道具の扱いに、今後も慣れていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 制作前に思いを聞き作品のイメージを膨らませてから表現させるようにする。また、柔軟な発想をしている児童の作品を称賛するなどして価値付けしていく。 鑑賞の場を設けて、互いの作品のよいところに気付いたり、自分の作品を工夫しようとしたりする意欲を育てていく。 <u>スムーズに表現活動に入れるように実演をして見せたり、ICT機器を活用して手元の動きを視覚的に捉えさせたりする。生活科などの学習活動にも道具を取り入れ、扱う機会を増やしていく。</u>

<p>体育</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 運動に意欲的に取り組む児童が多い。 • 体力テストの結果より、反復横跳びのような動きに慣れていない児童が多いことが分かった。 • 運動経験の有無の個人差が大きいため、体の動かし方や使い方に慣れさせ、様々な運動経験をさせたい。 • 遊び方を工夫する力を伸ばしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> • 既知の運動には意欲的なので、様々な運動経験を積ませる。 • <u>準備運動やウォームアップで跳ぶ動きを多く取り入れ、遊びを通して動きの感覚をつかませていく。</u> • <u>ICT機器を活用して、体の動かし方の手本やポイントを確認して、イメージをもつことができるようにする。</u> • <u>ICT機器で運動の様子を撮影し、自分の体の動かし方を客観的に確認できるようにする。</u> • 運動の場の設定、児童がお互いに運動を見合う機会の設定を充実させる。
<p>道徳</p>	<ul style="list-style-type: none"> • ICTを活用して、挿絵や写真を拡大したり、動作化、役割演技などを取り入れたりすることで、登場人物の気持ちを考えることができるようになってきた。友達との関わり合いの機会を増やし、多面的・多角的な考え方に触れられるようにする。 • 自分の経験を振り返る際には、自分の考えたことを、文字に表すことができるようにしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> • <u>自分の考えや振り返ったことをワークシートに文章で記入し、児童間で伝え合う活動を積極的に取り入れるようにする。</u> • <u>写真や動画で児童の身近なものを提示することで、教材とのつながりや自分の経験の振り返りをする手立てにする。また、書くことが苦手な児童には、絵で表すことや個別に聞き取って書き方を指導する。</u>

	課題（伸ばしたい力、身に付けさせたい力）	改善プラン（課題改善のプラン、 <u>具体的手だて</u> ）、改善プランの評価
国語	<ul style="list-style-type: none"> 読書が好きな児童が多く、読み聞かせを集中して聞くことができている。 物語を好んで読む児童が多いが、文字を読むことに抵抗感があり、図鑑等を読んでいる児童も少なからずいる。 話すことや書くことでは、初め、中、展開、終わりの構成を意識して大まかな筋道を考えることができている。 漢字の学習意欲が高い児童が多く、学習後は書字などよく理解しているが、時間が過ぎると定着度が低下する傾向がある。 文章を読んで、情景や登場人物の心情を捉えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝読書、読書旬間、図書などの時間を活用し、より一層本に親しむ機会を設けていく。 学校司書と連携を取り、画像やメディア、音声情報と比べ物にならない多くの情報があること、与えられた情景ではなく、自らが思う情景や登場人物の容姿等を作り出せる楽しさを理解させる。 考えの筋を簡単にメモとして柱立てする機会を設け、理論的な思考がより一層できるようにしていく。 既習の漢字を使用する機会を意識的に設定したり、日常的に漢字に目を向けさせたりする指導をより一層取り入れ、漢字への興味・関心を高める。 <u>漢字指導時に個別指導を行い、一度に学習する漢字の量と習熟度に応じた課題を設定する。</u> <u>音読の宿題を毎日出す。</u> 宿題チェック時にも正しく漢字を書けているか確認するとともに、家庭の協力も一層仰いでいく。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 全体的には、たし算やひき算の計算の技能が身に付いているが、個人差があり、10の合成分解でつまづいている児童もいる。繰り上がりのあるたし算や繰り下がりのあるひき算、かけ算を十分に習熟させたい。 文章題の場面を読み取って式に表す活動でつまづきが見られる。 センチメートルやリットルなど、単位を用いた計算では、具体的なかさや長さがイメージできる量感を身に付けさせたい。 図形についての感覚を豊かにしながら、図形を構成する要素に着目して捉える力を養わせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習の内容を復習しながら、<u>繰り返し練習</u>することで、計算の技能を身に付けられるようにする。かけ算については、日常的に唱え、様々な人に聞いてもらうなど意欲的に取り組めるようにする。 文章問題では、<u>立式の根拠を考えさせる</u>ことで、演算決定する力を伸ばす。 <u>ものさしや計量カップなど、具体物を用いて学習を進める。</u>算数の時間だけでなく、日常生活においても「長さ」「水のかさ」等を意識できるように、用語を用いて話す。 紙を折る、切る、等の、実際の操作を通して図形の特徴を実感できるようにする。 東京ベーシック・ドリルの診断テスト等で習熟の実態を確認する。
生活	<ul style="list-style-type: none"> 「ぐんぐん そだて わたしの野さい」では、ミニトマトの成長の様子、「生きものなかよし大作せん」では、ありが巣を作り、子育てする様子を観察し、変化や成長に関心をもちながら学習する児童が多かった。 虫や野菜の観察を通して、生き物への親しみをもち、大切に世話を続けることができた。視点をもった観察をして、観察カードを書くことができるようになってきた。 学校探検では、「1年生に学校のことを知ってもらおう」、「喜んでもらおう」と工夫をする中で、年上のお兄さんお姉さんとしての自覚が高まった。 町探検では、学校の周りにお店や施設に注目しながら地域を巡ることで新しい発見もあり、身近な地域に興味をもつことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> <u>生き物との関わりを通して、自分のよさにも気付けるようフィードバックをする。</u>観察する際には、<u>国語の観察文の書き方と関連付け、観察の視点、書き出しや文末表現の例を提示する。</u>さらに、児童同士で読み合い、付箋やカードなどを活用して気づいたことを残し、分かりやすい書き方をお互いに取り入れられるようにする。 2学期の町探検では、地域で生活したり働いたりしている人々と関わる機会を作り、仕事の内容や工夫について興味関心を深め、更に地域に親しみや愛着をもつことができるようにする。 「1年生に楽しんでもらいたい。」「優しくしてあげたい。」という思いを実現できるよう、おもちゃ作りでは遊び方の工夫に取り組み、秋探しの単元では一緒に秋探検を行い、関わりをもてるように活動を工夫していく。 <u>市立図書館などから教材に関する資料を集めておき、児童が気軽にすすんで調べることができるようにする。</u>
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 範唱を聴いて、曲想を感じ取ることができる。 身体でリズムをとったり表現したりしながら楽しく曲を聴いている。 意欲的に取り組もうとする児童が多いので、さらに楽譜を見たりして、正しい指使いやタンギングができるようにしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 伴奏をよく聴いて体で拍を感じ、心の中で歌うように指導する。 いろいろな演奏形態の曲や楽器の音色を聴かせ、様子を思い浮かべて聴いたり、曲の気分を感じたりできるようにする。 <u>楽曲の拍を感じ、手拍子するとともに、鍵盤を使って、指使いの確認やタンギングができるように、技能面を高めていく。</u>
図工	<ul style="list-style-type: none"> 活動に関心が高く、意欲的に取り組んでいる。 自分なりの発想で表現する楽しさを味わわせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の思いを大切に取り組めるよう、事前の教材研究や準備をする。 <u>個別の声掛けによって、児童の思いを形にできる手助けをする。</u>鑑賞の場を設け、互いの作品の素敵などを伝え合う活動を行う。

<p>体育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に運動に取り組み、楽しみながら授業を受けることができる児童が多い反面、体を動かすことに抵抗感のある児童も少なからずいる。 ・経験の違いによる運動技能に差があり、より一層技能面での個別指導を多く必要とする児童がいる。 ・他児童の様子を観察しながら、自分に合った運動の仕方見つける児童も含め、楽しみながら自分に合った運動を行うことができている。 ・友達の良い動きを着目して真似ることで、よりよい動きにつなげることができるようになってきている。 ・勝敗にこだわりながらも、ゲーム等を楽しもうとする態度が身に付いている児童が多い。 ・体力テストの結果より、「筋力」に課題がみられる。併せて筋持久力や柔軟性、俊敏性も高められる運動を取り入れていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動領域の特性に多く触れさせることにより、体を動かす心地よさを体験させる。そのために、技能差に応じた多様な運動の場を設定する。 ・スモールステップで、運動の高まりを実感できる指導計画を作成し、成就感・達成感をより多く経験させる。そのために、一つ一つのステップの目標の姿を意識させる指導を多く取り入れる。 ・児童のよりよい動きを学習場面に応じて取り上げ、共有化を図り運動の目標とする姿を意識させる学習展開を図る。 ・<u>学習者用端末を活用し、目標とするイメージを事前に意識させいる。</u> ・<u>学習者用端末や学習カードを活用し、スモールステップの学習過程や自らに応じた学習の姿を意識させ、より具体的な体の動きを知らせる。</u> ・必要に応じて実技テストを行うと共に、学習者用端末や学習カードに記録や振り返りなどを残していくことで、実態を把握していく。
<p>道徳</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用して、挿絵や写真を拡大したり、動作化、役割演技などを取り入れたりすることで、登場人物の気持ちを考えることができるようになってきた。友達との関わり合いの機会を増やし、多面的・多角的な考え方に触れられるようにする。 ・自分の経験を振り返る際には、自分の考えたことを、文字に表すことができるようにしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>自分の考えや振り返ったことをワークシートに文章で記入し、児童間で伝え合う活動を積極的に取り入れるようにする。</u> ・<u>写真や動画で児童の身近なものを提示することで、教材とのつながりや自分の経験の振り返りをする手立てにする。また、書くことが苦手な児童には、絵で表すことや個別に聞き取って書き方を指導する。</u>

	課題（伸ばしたい力、身に付けさせたい力）	改善プラン（課題改善のプラン、具体的手だて） 改善プランの評価
国語	<ul style="list-style-type: none"> 読書が好きな児童が多い。今後更に様々なジャンルの本に触れさせたい。 物語文に興味をもち、積極的に読むことのできる児童が多い。さらに、根拠をもって人物像を捉え、読み取る力を身に付けさせたい。 文章を書く時に句点や句読点を適切に使用したり、文のまとまりを意識したりできるようにしたい。 3年生になって、習得する漢字が多くなったので、とめ、はね、はらいなど正確な書き取りができるように指導したい。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、読書の時間を確保したり学校司書と連携したりしながら、読書への興味・関心を高めていく。 授業では登場人物の心情や性格を捉えることができるようにサイドラインを引かせるなど工夫していく。 音読の宿題を毎日出す。 新出漢字の学習では、空書き、なぞり書きなどを徹底させ、書き方のポイントや間違えやすいポイントを分かりやすく示す。また、家庭学習や小テストなどを通して、繰り返し指導をし定着を図る。 書いた文章をチェックして、正しく書けていなければやり直しをさせて、正確な書き取りを意識させる。 ワークシートやノート等を書く際、既習の漢字を使うよう繰り返し指導する。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 地図や資料等から情報を読み取ることが出来るようになっていく。 読み取ったことを、表現したり、別の場所で活用・応用したりする力を身に付けさせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 方位の表し方や地図記号については、授業内で折に触れて扱うようにする。また、副読本や教科書を併用しながら、複数の資料から情報を読み取れるような学習展開をする。 社会科で学習した内容を総合的な学習の時間等に関連付け、学んだことをアウトプットする活動を取り入れながら、表現する力を付けていく。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 新しい単元の学習に入る時に、既習事項が定着していないことでスムーズに学習内容を理解できないことがある。 主に文章問題を解決する場合において、何を求めるのか、どのように解決していけばよいのかを考えて、説明することができないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題解決型の学習を繰り返し行うことで、学習の進め方を定着させるとともに、既習を活用した問題の解決の仕方を指導していく。 文章問題を解決する際には使用する数値や解決に必要なキーワードに線を引かせたり、図に表す方法を示したりすることで、自力で取り組めるように指導をしていく。 習熟別指導、補習教室を活用して指導をし、定着を図る。 単元ごとのレディネステストや東京ベーシック・ドリルの診断テスト等で習熟の実態を確認する。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 実験や観察を楽しんで行う児童が多いので、さらに、興味や関心を高めさせるための体験を大切にしたい。 動物や植物の体など、正しい用語を使って表すことを身に付けさせたい。 問題に対する予想を立てる際には、結果の見通しをもてるようにしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元の導入では、こどもの知的好奇心を高められるような体験的な活動を設けて、追及課題をつくるようにしていく。 授業のまとめでは、学習した内容を振り返るだけでなく、正しい理科の用語についても確認していく。 理科の学習の流れをしっかりと身に付けさせるとともに、予想を立てる際には生活経験やこれまでの学習で得たことを生かすようにさせたい。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 階名の読み取り、リズム打ち、リコーダーの指使いの学習等に意欲的に取り組んでいるが、タンギングが身に付いていない児童が数人いる。 楽器の音色の特徴に関心を持ち、楽しむ態度が身に付いている。 	<ul style="list-style-type: none"> 旋律の動きや拍の流れ、楽曲の特徴を体感できるようにする。 鑑賞の活動を更に充実させて、表現に対する興味を広げていく。 個に対する実技指導を大切にしている。 定期的にテストなどを行い確実に身に付くように指導する。
図工	<ul style="list-style-type: none"> 意欲的に取り組み、自分を表現しようとしている。 制作、造形遊びとともに、楽しみながら活動に取り組んでいる。 丁寧に最後まで取り組むことが難しい児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教材提示や説明、作業の時間配分を細かく区切って授業展開にメリハリをつける。 落ち着いた雰囲気の中で、安全に気を付け集中できるように配慮する。 個々の児童のよさを価値付けして、自信をもたせるように配慮する。
体育	<ul style="list-style-type: none"> 意欲的に取り組んでいる児童が多い。 友達と協力して、用具の準備をしたり、励ましの声を掛け合ったりしながら学習に取り組めるようにしたい。 更に個々の技能面を伸ばしたい。 体力テストの結果より、走力に関して個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 安全に配慮することや、友達に励ましの声を掛けたり、応援したりする態度を、毎回の授業の中で価値付けていく。 用具や場の工夫をしたり、学習カードを活用したりしながら、児童が自発的に動けるような場を設定していく。 学習カードを活用し、自分のめあてと活動を振り返りながら、技能面での向上を目指す。また、技能面からの振り返りも行い、よりよい動きをするためにはどうすればよいかを考えることができるようにする。 体育の時間にジョギング等の走る運動や体幹トレーニングを取り入れる。

<p>道徳</p>	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物の気持ちを考え、理解しようとする児童が多くいる。気持ちを想像したり、考えをまとめられる力を伸ばしたい。 ねらいとする道徳的価値との関わりについて振り返ることができるように育てたい。 学んだ道徳的価値を、日々の生活に活かせるようにしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達の意見を聞きながら自分に近い考えを確認させたり、役割演技やグループ活動を取り入れたりしながら児童が自分なりの考えを表出できるようにする。 各教科や体験活動と関連させて指導を行い、児童がねらいを自分事として捉えたり、自分の経験を基に自己を振り返ったりすることができるように発問を工夫する。また、個々の児童の実態に配慮しながらワークシートに書かれた児童の振り返りを紹介し、具体的に自己を振り返ることに対する意識を高める。また、振り返りの時間も十分確保する。 日々の生活で、道徳的価値を意識している児童がいた場合には賞賛をし、周りによさを広げる。また、学習した道徳的価値を実践するような機会を意図的に設定して、個人や集団の良さを価値付ける。
<p>外国語</p>	<ul style="list-style-type: none"> 簡単な語句の聞き取りや意味理解の技能を伸ばしたい。 歌やチャンツを通して、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができるようにしたい。 他の国の文化に興味をもち、日本と比べながら学習し、自国の良さを再発見できるようにしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ゲームやアクティビティなどの活動を多く取り入れて、音声で十分に慣れ親しめるようにする。 具体物や画像などの視覚的にわかる資料を用いて、日本語と英語の音声の違いや、語順の違いなどが分かるようにしていく。 外国の文化を知るとともに、日本の良さや、他国との違いを理解できるように発問していく。

	課題（伸ばしたい力、身に付けさせたい力）	改善プラン（課題改善のプラン、具体的手だて）、改善プランの評価
国語	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の書き方の例などを参考に取組むが、鍵括弧の使い方など文の書き方などの定着が不十分で、さらに要約など短くまとめて書くことを苦手とする児童がいる。 文章の読み取りでは、本文から分かることと自分の意見との区別がつかないことや叙述に即して答えられないことも多い。 新出漢字の学習には意欲的に取り組んでいる。さらに、書き順や字形、読み方を定着させ、既習漢字を日常的に使う力を身に付けさせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 書く目的に応じて、「はじめ」「なか」「おわり」などの文章構成の「型」を身に付けられるように、文章の例を示しながら指導していく。また、文章を書く上での材料の集め方やメモの取り方についても指導を行っていく。 文章（教材文）から分かることや、問われていることを明確にしながら読み取る練習を重ねる。<u>叙述を根拠に自分の考えをもてるよう、中心になる文や根拠となる文について、サイドラインを引かせたり、ノートに書き出させたりする。また、学習者用端末を活用して、それぞれが読み取った内容を共有し、根拠を基に考え、話し合うことができるようにする。</u> 新出漢字について、その漢字の意味についても児童が理解できるように指導する。また、文章を書くときに、学習した漢字をすすんで使うように指導し、漢字の定着につなげる。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちで学習課題を設定できるが、課題解決に向けて何を調べればいいのか、考えられる児童が少ない。 動画画像資料やグラフ、図などから内容を読み取ることや、その変化を探求する能力に差がある。 社会科見学の意義についての理解に児童間で差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元の導入において、児童が学習内容に興味をもてるように、資料提示の工夫などに取組む。 児童が資料を読み取り、読み取ったことを児童同士が確認する時間を十分に確保する。学習者用端末を活用し、それぞれの児童が資料から読み取ったことを効率的に共有し、より多くの情報を得られるようにする。 <u>社会科見学の目的を明確に示し、児童の社会科見学への興味・関心を高める。事前に社会科見学で学ぶことや、児童自身が疑問に思っていることを整理する時間を十分に確保する。</u>
算数	<ul style="list-style-type: none"> 3年生までの既習事項が定着していないことで、スムーズに新しい学習内容を理解できないことがある。既習内容の定着を図りたい。 課題に興味をもって取り組んでいるが、理解度には大きな個人差がある。個々の計算をする力、測定をする力を伸ばしたい。 自分の考えを図や言葉、式を活用して説明する学習を適宜行っているが、表現したり、伝えたりすることに苦手意識をもつ児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元ごとのレディネステストや東京ベーシック・ドリルの診断テスト等で習熟の実態を確認する。 各少人数教室や学年の課題を教員が共有し、その課題に合った教材を活用して、基礎的な学習の定着を図っていく。 習熟度別の理解度に合わせて、学習課題の見通しをもたせて、問題に取り組めるように授業をすすめる。 <u>友達のかえや伝え方などの良さに触れさせながら、よりよい考え方、考えのまとめ方、伝え方の指導をしていく。</u> <u>自分の考えを表出する時間を大切に、どのような考え方をしたのか全体で交流していく。</u>
理科	<ul style="list-style-type: none"> 観察や実験に意欲的に取り組む児童が多い。気が付いたことを記述するだけでなく、今までの観察との比較や実験結果、経験を根拠に観察や実験に取り組むなど基本的な技能をさらに身に付けさせたい。 解決したい問題についての予想や仮説を発想する際に、自然の事物・現象と既習の内容や生活経験とを関係付けたり、自然の事物・現象の変化とそれに関わる要因を関係付けたりする力を伸ばしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の疑問や気付きから学習問題や観察、実験の内容を設定し、主体的に取り組めるように指導する。 <u>観察、実験の手順、注意事項を確認し、安全に取り組めるようにするとともに、基本的な技能を身に付けられるように指導する。</u> <u>身近な事象・現象を提示したり、共通の体験を児童にさせたりすることで、問題を見出したり、結果を示せたりできるようにする。</u> <u>身近な事象・現象を提示して、生活経験と関連付けて予想や仮説を考えられるように指導する。</u> <u>めあて、問題→予想→実験→結果→考察→結論という流れを意識させ、型を示しながら、徐々に自分の言葉でまとめることができるようにする。またロイロノートなどを活用して、まとめ方を共有し、参考にできるようにする。</u>
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 意欲的に学習に取り組む児童が多く、音楽を楽しんでいる。 歌唱の活動が好きで、思い切り表現できる児童が多い。 美しい音色でリコーダーを演奏することができる児童が多く、前向きに取り組む姿が見られる。苦手意識のある児童もいる。 鑑賞の活動に意欲的に取り組み、音色の違いに気付きながら楽しんで聴くことができる。 器楽合奏が好きで、色々な楽器への興味関心が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> さらに意欲が高まるよう、テンポよく授業を進められるよう学習展開を工夫していく。 さらに表現の幅を広げられるよう、歌詞の内容を十分理解させ、表現に必要な技能を指導していく。 <u>引き続き、よい音への意識を高め、互いに聴き合う時間を多く設定し、さらに自信をもたせる。定期的にテストなどで運指等を確認し、苦手意識のある児童も自信をもって演奏できるようにする。</u> 鑑賞では、聴き取ったことと感じ取ったことの関わりに気付けるよう、ワークシートや板書を工夫し、音楽のよさに児童が気付けるような授業展開になるようにする。 様々な楽器に触れる時間を十分に確保し、楽器の特徴をつかむとともに、友だちと音を合わせる楽しさを味わえるよう授業展開を工夫する。

図工	<ul style="list-style-type: none"> ・モダンテクニック等、新しく習ったことを意欲的に取り入れ、かつ応用して自分なりの表現を生み出せる、感性豊かな児童が多い。 ・納得いくまで粘り強く作品を完成させる児童と、後半雑になってしまう児童の完成度の差が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら考えて応用することで、自分の表現がさらに深められるような課題の設定、またいろいろなヒントで発想を促す。 ・<u>完成作品の提示により作品の完成度の目標や、作業時間のペース配分を明確にする。</u> ・<u>鋸や彫刻刀など安全に使えるように指導する。</u>
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・運動に楽しく取り組んでいる児童が多い。危険な暑さにより、体育の授業を実施することが中々できなかった為、十分な運動量を確保できない場面もあった。 ・ルールを守って集団行動をすることができる児童を増やしたい。 ・ボール運動など個々の領域では運動経験の差があり、技能面での指導が必要である。 ・体力テストの結果より、「走・跳の運動」が平均を下回っているため、技能面の向上が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かす心地よさを感じられるような指導計画を立てる。<u>準備運動は日陰で行ったり、適宜水分補給を入れたりするなどの工夫を行う。</u>体育館体育では適宜、冷房を活用する。 ・<u>毎回の授業で安全面についての指導を行っていくとともに、授業計画段階で安全面を確認し、事故の事前防止に努める。</u> ・動画を撮影することで、自分の技能を客観的に振り返ったり、上手な児童の技能を参考にしたりできるようにすることで、<u>技能や課題に粘り強く取り組む態度の向上と振り返りから次回の自分のめあてを考える型をつくる。</u> ・<u>準備運動などで定期的に走力および踏力向上につながる動き(縄跳び含む)を取り入れる。</u>
道徳	<ul style="list-style-type: none"> ・教材を通して児童がもつ問題意識を高め、自分事として捉えて自己の生き方についてより考えを深めていく。 ・他者と対話したり協働したりしながら、物事を多面的・多角的に考えられる力を伸ばしたい。 ・自分の考えと他人の考えの異同に気付け、またその意見を認め合える児童を増やしたい。 ・振り返りの場面において、自分の生活経験と関連付けて考えたり、それらを表現したりする力を伸ばしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が<u>道徳的価値についてより身近に感じられるように</u>、生活の中で想像しやすい話を導入で工夫して行う。 ・様々な視点から物事を理解できるようにするために、教師や友達、教材との対話する時間を十分に確保する。 ・板書では、児童の考えを分類したり、関連付けたりし、<u>考えの視覚化を図り</u>、考えを深められるようにしていく。さらに常に友達の考えのよさを見つけられるように、価値付けしていく。 ・<u>振り返りの時間をしっかりと確保する。</u>また、教師の説話の中で、<u>振り返りの視点を与えたり、教材に合った身近な出来事を話したりしながら</u>、振り返りの質を向上させるようにする。
外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な語句や基本的な表現を用いたり、動作を交えたりしながら、コミュニケーションを図ろうとする態度を養う。 ・日本と外国との生活や習慣、行事などの違いを知り、多様な考え方があることに気付き、理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>外国語を安心して発することができるような雰囲気を作ったり、意図的にゲームやアクティビティなどを取り入れたりと、自分の考えや気持ちなどを表現できるようにする。</u> ・毎時間既習表現を使う時間を設け、身近で簡単な事柄に関する事柄について質問したり答えたりできるようにする。 ・外国の文化に対する理解を深められるように、外国の様子がわかる動画や資料を用いて紹介する。

	課題（伸ばしたい力、身に付けさせたい力）	改善プラン（課題改善のプラン、 <u>具体的手だて</u> ）、改善プランの評価
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の考えをよく聞いて、付けたしをしたり、質問をしたりしている児童が多い。さらに、自分の意見に自信をもって発表することができるように指導したい。 ・説明文の読み取りでは、筆者の主張を捉えたり中心となる文を見つけたることができる。個々の文章構成を読み取る力を伸ばしたい。 ・書く事柄の順序を整理したり、伝えたいことを分かりやすくまとめて書いたりする力を身に付けさせたい。 ・漢字学習では、学習した新出漢字を文章の中で使用していない児童が多い。 ・自らすすんで読書をする児童が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「書く」学習活動において、文章の書き方の例を提示し、「はじめ」「中」「おわり」の順序に着目させ、段落を活用した読みやすい文が書けるよう指導する。伝えたいポイントをメモするなど整理してから文章を書き、伝えたいことを分かりやすくまとめられるよう指導する。また、読み合う活動を通して書き直す活動を設定する。 ・順序を表す言葉や、時系列を表す言葉に着目させて読むことに加え、事実と意見を区別することや、資料を用いた論理展開を理解できるように指導し、文章全体の構成を捉えられるように指導する。 ・<u>個人で考える時間を十分に確保する。ペア→班→クラス全体というように、話し合う人数を徐々に増やすことで、自信をもって話し合いができるようにする。</u> ・<u>音読の宿題を毎日出す。</u> ・<u>ノートに書く際、既習の漢字を使うよう繰り返し指導する。</u> ・<u>学習した漢字を使用していない場合は、その都度声を掛け続け、日頃から使う習慣を身に付けさせる。</u> ・<u>本をすぐに手に取れる書環境を作り、読書の機会を多く設け、児童が十分に本を読める時間を確保する。</u> ・<u>ジャンルを特に指定せず、興味のある本を積極的に読むように声を掛ける。</u>
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・国土の学習において地球儀や地図で調べる際、学習に興味・関心をもって取り組む児童が多くいた。 ・農産物の学習に興味・関心を持ち、自分たちで学習課題を設定し、学習に意欲的に取り組んだ。 ・教科書や資料集の情報を読み取り、表現する力が高い児童が一定数いる。その児童を手本として、グラフや図などから内容を読み取ることや、その変化の要因を探求する能力を向上させたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が興味・関心をもてる学習計画をたてると共に、教具や教材を準備していく。授業の際は地図帳を見ながら場所の確認を行い、空間的認識ができるように指導していく。 ・単元の導入で興味・関心をもつことのできるような授業づくりをこれからも努める。 ・<u>資料の読み取りを授業で繰り返し行う。資料の読み取り方を例示してから、同じような資料の読み取りに取り組ませたり、全体交流を通して自分の考えをもたせたりする。</u> ・<u>友達と交流して考えを深めてから、自分の考えをノートに記入できるようにする。</u>
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に熱心に学習に取り組む児童が多い。粘り強く練習することの大切さやや問題が解けたときの達成感を感じている様子がある。 ・小数のかけ算、わり算は正答率が低かった。 ・自分の考えを一生懸命にノートにまとめようとする児童が多い。既習事項を上手く活用し正しい用語を用いてまとめられるように指導したい。 ・友達と自分の考えを比べながら話を聞き、考えを深めることができる児童が多い。 ・基礎知識が高い児童が多く、児童主体でも授業を進めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが意欲的に取り組める授業づくりに努める。問題解決型の学習を繰り返し行うことで、学習の進め方を定着させるとともに、既習を振り返り、既習を活用した問題の解決の仕方を指導していく。 ・考えを聞き合う学習を今後も行い、相違点に着目して考えを広げていける指導をしていく。また、算数の用語を積極的に使用するように指導する。 ・<u>文章題ではわかることと問われているところに線を引かせる指導をして、題意を正確に捉えられるよう指導する。</u> ・<u>上手に書けているノートを例示し、モデルを示す。</u> ・<u>単元ごとのレディネステストで習熟の実態を確認する。</u>
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・学習したことを、確かな知識として定着させたい。 ・問題解決の方法を、計画する力を身に付けさせたい。 ・観察や実験に意欲的に取り組む児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学んだことをまとめる時間を確保するとともに、<u>ロイロノート等の共有手段を活用して、プレゼンテーションを作成したり発表したりする活動を通して、知識を定着させる。</u> ・<u>問題解決の方法をいくつか提示して、より良い方法を選択させたり、問題解決のために知りたいことや調べてみたいことを明らかにさせたりする時間を、学習活動に取り入れていく。</u> ・引き続き、学習への意欲を高められるよう、<u>予備実験やワークシート等の準備を丁寧に行う。</u>また、学びへの意欲が持続するよう、<u>児童が調べたいと思ったことを主体的にまとめる時間を、計画的に授業に取り入れていく。</u>
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的には意欲的に学習に取り組む児童が多いが、中には個別の支援が必要な児童もいる。 ・歌唱の活動が好きで、伸び伸びとよい表情で歌う児童が多い。 ・美しい音色でリコーダーを演奏できる児童が多く、前向きに取り組む姿 	<ul style="list-style-type: none"> ・さらに意欲が高まるよう、難しい曲にも取り組ませるなど、学習内容を工夫していく。個別にきめ細かく支援していき、確実に基本の定着を図れるようにする。 ・歌詞の内容を理解させ、さらに思い切り表現できるよう学習展開を工夫していく。 ・教材や言葉がけを工夫して、鑑賞で学んだことを自分たちの表現に生かしていけるようにする。また表現

	<p>が多く見られる。さらに個々の運指の技能を身に付けさせたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 鑑賞の活動に意欲的に取り組み、音色の違い等に興味をもって聴くことができる。 器楽合奏に意欲的に取り組む児童が多く、友だちと協力してよりよい演奏を目指そうと努力することができる。 	<p>の違いによる面白さに気付けるようにしていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> 互いの音を聴き合うよう指導し、さらに音を重ねる楽しさを味わわせ、友達と協力してよりよいものを目指すよさを実感させる。 引き続き、よい音への意識を高め、互いに聴き合う時間を多く設定し、さらに自信をもたせる。 基本が身につけていない児童には、個別に指導したり、家庭で練習するよう声掛けしたりして、身に付けさせる。 定期的にテストなどを行い確実に身に付くように指導する。
図工	<ul style="list-style-type: none"> 意欲的に活動している。 これまでに身に付けた技法を用いて制作している。 個々の作品を仕上げるのに要する時間に違いがある。 鑑賞では、友達の作品の良さに気付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎時ごと実演で制作全体の見通しを示し、その時間ごとのポイントを理解させる。 個別の声掛けで作業内容、スピードの確認。大幅な遅れは休み時間に対応しカバーする。 彫刻刀や電動糸鋸等、危険な道具が多く出てくるため、安全管理をしっかりと行う。
家庭	<ul style="list-style-type: none"> 家族の生活を見つめ、家族の一員として、できることを実践する姿が見られる一方で、家庭科で学習したことを生かしている児童は少ない。 基本的な手縫いの学習に意欲的に取り組む児童が多い一方で、習得には差がある。安全面の指導で縫い針を紛失しないように意識付けを図った。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習したことを振り返り友達の体験等も参考にし、家庭で役立つことをすすんで行うように指導していく。 学習者用端末から自分の課題に合わせた動画を視聴し、全て正しい操作を身に付け、実用的な物の製作を通して、作る楽しさや生活に役立つことへの喜びを実感できるようにする。 調理実習を行う場合は事前学習をしっかりと行い、安心して食べられる料理を作れるようにする。教員は事前の食材の準備や道具の準備をしっかりと行う。
体育	<ul style="list-style-type: none"> 運動に楽しく取り組んでいる児童が多い。 ルールを守って運動できる児童が多数いる。 チームで作戦について話し合い、工夫することができる。 非日常的な動き（マット運動、柔軟性、投運動など）に関しては、技能差が大きい。技能の習得にのみ注視せず、課題解決能力を身に付けさせられるようにしたい。 体力テストの結果から、全身持久力や柔軟性の向上に努めたい。また、男子は投げる動きの定着を図り巧緻性を高めたい。女子は俊敏性や筋力が高められるような運動を行っていききたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 用具や場を工夫し、スモールステップで運動に親しむことができるようにする。 学習カードやホワイトボードなどを活用して、自分や自分たちの課題を設定し、粘り強く課題解決に取り組めるようにする。 安全面への配慮の視点や、仲間への声掛けの仕方について具体例を用いたり掲示物にして示したりすることで、児童が積極的に取り組めるようにする。 教師の意図的な言葉掛けにより、児童の思考を促す。 授業の導入や主運動につながる運動として、持久力や柔軟性などを高めるための運動を取り入れ、継続的に取り組む。また、ボールを投げる運動を行う際には、体の使い方の指導を丁寧に行うとともに、休み時間等でもボールを使った遊びに親しむように促す。
道徳	<ul style="list-style-type: none"> 自他の考えの違いを受け止められる児童が多い。 積極的に発言する児童に偏りがあるため、意思表示等で自分の考えを表現できるように指導したい。 自分の生活経験や既習事項をもとに考えているが、学級や社会との関わりについて言及したり、将来の自分の姿に考えを及ぼしたりするように指導したい。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えをもち、自分と友達の考えとの違いを比較できるようになるために、引き続き発表の方法を工夫するとともに、発表の時間を確保する。板書では、児童の考えを分類したり、関連付けたりして、考えの「見える化」を図り、考えを深められるように指導する。 板書された友達の考えを見て、共感する場合に挙手をする等、意思表示の場面を設定し、自分の考えを表現できるようにする。 事前に児童に取ったアンケートの結果を紹介したり、題材に合った身近な出来事を話したりして、意欲や関心が高まるように工夫して指導する。
外国語	<ul style="list-style-type: none"> 大きな声で積極的に発声できる児童が多いので、身近な事柄について、伝えようとする内容を整理して表現することができるようにする必要がある。 簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の趣味や得意なことなど、身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを表現できる力を育てる。 身近なALTと一緒にゲームや歌、チャンツを行い、楽しみながら英語を話すことに慣れ親しんでいる。 外国語や外国の文化に親しむ経験を積ませたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 安心して外国語を発声することができるような雰囲気を作ったり、意図的にゲームやアクティビティなどを取り入れたりして目的をもって活動できるようにする。 外国語に慣れていくために、歌やゲームなどを多く取り入れる。また、ALTや友達と外国語を使ったコミュニケーションをとれる場をたくさん設ける。 ALTや、視聴覚教材などを活用し、言語の違い、日本と外国の文化（行事・生活・習慣など）との違いに気付かせる。 「書く」活動では、語と語の区切りに注意することや、簡単な語句や基本的な表現を用いた例の中から言葉を選んで書く活動を取り入れる。

	課題（伸ばしたい力、身に付けさせたい力）	改善プラン（課題改善のプラン、具体的手だて）、改善プランの評価
国語	<ul style="list-style-type: none"> 友達の考えをよく聞いて、自分の考えを付けたしたり、質問したりできる児童が多い。さらに自分の意見に自信をもって発表できるようにする必要がある。 物語文や説明文に対して、ほとんどの児童が自分の考えをもつことができる。さらに考えの根拠が明確にできる力を伸ばしたい。 読書に意欲的な児童が多く、活字に親しんでいる一方、よく読むジャンルに偏りがある。 作文用紙の使い方や、文中での語句の係り方や語順、文と文の接続の関係を理解して文章を書く力を身に付けさせたい。 前の学年までに配当されている漢字を文や文章の中で大半の児童が使用している。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の意見をもつための時間を確保する。その後ペアやグループでの交流を設定し、自分の意見に自信をもてるようにする。 自分の考えの根拠が明確になるように意識的に教材文に立ち返らせる。読み取った登場人物の気持ちや筆者の伝えたいことを書いたり、友達と伝え合ったりする活動を多く設定する。 学校司書と連携して、味見読書や必読図書を推進する。それにより、児童が様々なジャンルの本に触れ、本に興味をもつ機会をつくる。 授業の中で語句の係り方や語順、文と文の接続の関係を繰り返し確認し、作文用紙を使って文章を書く機会を計画的に作る。言語事項に関する内容についてプリントを用いたり、普段から辞書を引く機会を設けたりするなど、継続的な指導をする。 習った漢字は日頃から使う習慣を身に付けさせる。ノートやワークシートで習った漢字を使えていない時はその都度直させるなど、継続的な指導をする。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 社会科の学習に対して興味をもって取り組める児童が多い。 資料から情報を読み取ることは意欲的に取り組むことができている。どの資料を活用するかを取捨選択し学習を進められるようにしていきたい。 資料から読み取ったことを表現する力には個人差が見られる。 調べて分かったことを整理したり、学んだことから自分が考えたことを文章にしたりして自分の力で学習のまとめをすることについて苦手と感じている児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 写真や動画などの資料を使う際は、読み取る際の観点・視点を絞って資料を読み取らせるようにする。 友達と交流する活動を取り入れ、表現の仕方を増やせるようにする。 単元の最初に学習問題や学習計画を立て、何をどのように学んでいくのか、学習のイメージをもたせる。単元のまとめでは、学習問題に戻り、単元を振り返りまとめる活動を行う。ロイロノート等を活用しながら、様々な考え方、表現の仕方に触れさせるとともに、まとめ方を習得できるようにする。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 知的好奇心が高く、難しい問題に積極的に取り組もうとする児童が多い。さらに主体的に学ぼうとする意欲を引き出したい。 自分の考えを伝えるのに苦手意識をもっている様子が見られる。 学力の差が大きく、基本的な整数の四則計算が身に付いていないために小数や分数の計算でつまづいている児童が少なくない。 筆算の位が揃っていないことや、筆算を小さく書きすぎて計算ミスにつながっているケースが一定数ある。 問題の解き方を説明したり、他の解き方を考えたりすることに対して意欲的に取り組む力を伸ばしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習を繰り返す中で、問題を解決できた喜びを感じさせたり、自分に自信をもたせられるような言葉掛けをしたりして、学習に前向きに取り組むよさを感じられる指導をする。 自分に自信をもたせる指導と同時に考えの伝え方のモデルを示し、苦手意識を徐々に克服できるようにする。 基礎的基本的な計算問題を定期的に解かせ、既習事項の振り返りを行うとともに、その活用方法について声掛けを行う。 筆算の方法や余白への計算の仕方、ノート指導を徹底するとともに、手本のノートを紹介してモデルケースとする。 問題解決型の学習を繰り返すことで、学習の進め方を定着させるとともに、既習を活用した問題の解決の仕方を指導していく。 習熟度別指導で学習の定着の様子を把握し、必要に応じて個別のフォローを入れていく。 単元ごとのレディネステストや東京ベーシック・ドリルの診断テスト等で習熟の実態を確認する。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 学習したことを、確かな知識として定着させたい。 目的意識をもって実験をすることを身に付けさせたい。 観察や実験に意欲的に取り組む児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 学んだことをまとめる時間を確保するとともに、ロイロノート等の共有手段を活用して、プレゼンテーションやクイズを作成したり発表したりする活動を通して、知識を定着させる。 考えられる予想をいくつか提示して、自分の考えに近い予想を選択させたり、根拠を明確にしたりする時間を、学習活動に取り入れていく。 引き続き、学習への意欲を高められるよう、予備実験やワークシート等の準備を丁寧に行う。また、学びへの意欲が持続するよう、現代社会の科学技術や社会問題と学習内容とのつながりが分かるよう、学習のまとめの段階等でそれについて学ぶ機会を計画的に授業に取り入れていく。

音楽	<ul style="list-style-type: none"> • 全体的には意欲的に学習に取り組む児童が多いが、中には個別の支援が必要な児童もいる。 • 歌唱の活動が好きで、伸び伸びとよい表情で歌う児童が多い。 • リコーダーの演奏に前向きに取り組む姿が多く見られる。 • 鑑賞の活動では、音楽の特徴を捉えながら聴く意識が高まっており、授業を通して聴き方に深まりがある。自分たちの表現と結び付けて考えられる児童はまだ少数である。 • 器楽合奏に意欲的に取り組む児童が多く、友達と協力してよりよい演奏を目指そうと努力することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> • さらに意欲が高まるよう、難しい曲にも取りこませるなど、学習内容を工夫していく。<u>基本が身に付いていない児童には、個別に指導したり、家庭で練習するよう声掛けしたりし、基本の定着を図れるようにする。</u> • 歌唱では、歌詞の内容を理解させるとともに、思いや意図を表現するために必要な技能を身に付けられるよう学習展開を工夫していく。 • 教材や言葉掛けを工夫して、鑑賞で学んだことを自分たちの表現に生かしていけるようにする。また表現の違いによる面白さに気付けるようにしていく。 • <u>演奏を工夫する時間や聴き合う時間を十分確保し、自分や友達の表現のよさを認め合いながら、さらによりよい演奏を目指す姿勢を育てていく。</u>
図工	<ul style="list-style-type: none"> • 話を聞く姿勢が良い。意欲的に取り組む児童が多い。 • 今まで経験した道具・材料を使い、作品をつくることができる。 • 納得のいく作品にこだわりすぎて、時間の制限を守れない児童がいる。 • 友達の作品の良いところを見つけ、自分の作品の良さにも気付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> • <u>作業工程をしっかりと理解させるため、見本作品や実演で興味を引き出すように工夫する。</u> • 工程を区切り、都度確認を怠らない。 • 電動糸鋸や彫刻刀などの刃物の扱い、安全面に配慮する。
家庭	<ul style="list-style-type: none"> • 実習では、計画を立てるところから実習、振り返りまで、主体的に取り組む児童の姿が多く見られた。 • 自分自身の生活時間を見直し、朝食をとる必要性を学習したが、課題意識の低い児童や実践することが難しい児童がいる。 • 家庭で調理する機会が多い児童とそうでない児童の差が大きい。 • 洗濯表示や調理方法など、基本的な知識の定着に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> • 持続可能な社会を生きるために、自分でできることを考え、実践していけるようにする。 • 生活の中で実践することを通して、実感を伴った理解を深められるようにする。 • 献立を考える上で大切なことや食事の働きを知り、栄養のバランスを考えた1食分の献立を立てることができるようにする。 • <u>家庭で取り組む課題を実施する。</u>
体育	<ul style="list-style-type: none"> • 運動に楽しく取り組んでいる児童が多い。しかし、指示されたことは一生懸命行うが、自主的に運動に取り組もうとする意欲に課題がある児童もいる。 • ルールを守り、運動を楽しむことができる。チームワークがよく、友達と作戦を工夫することができる。 • 日常の遊びの中であまり触れていない動き（マット運動、柔軟性、投運動など）に関しては、個々の技能を伸ばしたい。 • 運動の最中に考えたことを言葉や文字で表現することに慣れていない様子が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 用具や場の工夫、学習カードの活用をして、自ら課題を設定し、粘り強く取り組めるように学習環境を整え、<u>自分の課題に合った練習の場を設定し、練習方法を考えられるように工夫をする。</u> • 安全に気を付けて全力で取り組む大切さや、進んで友達を励ましたり、助言したり、応援したりする態度について、毎時間価値付けて指導をする。 • <u>学習者用端末を活用して自分の動作を客観的に見る、教え合いのポイントを先に教示し、話し合い活動に生かすなどし、技能を伸ばす。</u> • どのような表現方法がよいのか、<u>伝え方のモデルを示し、コミュニケーションの際に活用できるようにする。</u>
道徳	<ul style="list-style-type: none"> • 自分自身について考えたり、相手意識のある考えを述べたり、書いたりすることができる。さらに、相手の立場や意見に思考を巡らせることができるように指導したい。 • 価値項目に対して、自分とは違う考えや捉え方に気づき、その良さを考える児童がいる。一方で、他人の考えを認められない児童や、自分の考えをうまく表現できない、まとめられない児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 導入や教材提示に工夫し、児童に考えさせたい価値項目について考えやすいようにする。学習の振り返りで、児童が相手意識をもちやすいような生活場面を提示したり、ペアやグループでの交流活動を取り入れ考えを共有したりする。 • <u>考える時間を確保することや、ペア活動やグループ活動の少人数での交流活動を設け、自分の考えをもったり、表出させたりする時間や活動を複数回もつようにする。</u> • 何のためにきまりがあるのかを道徳の授業と教育活動全体を通して横断的に日頃から指導する。よい行動に対して教師が価値付けし、規範意識を高める。
外国語	<ul style="list-style-type: none"> • ゲームや歌、チャンツを楽しみながら取り組む児童が多いので、目的、場面、状況に合わせてコミュニケーションをとる力を育てたい。 • 簡単な語句や基本的な表現を用いて、学校生活や地域に関することなど、身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを表現できる力を育てる。 • 「書く」ことに慣れてきているが、4本線への書き方がまだ定着していない。基本的な表現を書き写す時間を設けて定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> • 外国語に慣れていくために、歌やゲームなどを多く取り入れる。また、ALTや友達と外国語を使ったコミュニケーションをとる場を多く設定し、表現の定着を図るようにする。 • 既習表現を何度も繰り返すことで、自信をもって発音・発話できるようにする。 • ねらいに応じたアクティビティー（ゲーム）を選択し、英語を繰り返し発話したり、聞いたりして表現に親しむ。 • <u>ALTや、視聴覚教材などを活用し、言語の違い、日本と外国の文化（行事・生活・習慣など）との違いに気付けるようにする。</u> • <u>「書く」活動では、語と語の区切りに注意することや、簡単な語句や基本的な表現を用いた例の中から言葉を選んで書く活動を取り入れる。</u>